

【飯盛城跡の概要】

飯盛城跡は大東市・四條畷市にまたがる飯盛山の山頂に築かれており、城域は東西約400m、南北約700mを測ります。享禄3年(1530)木沢長政の居城として文献上はじめて登場し、その後城主は、安見宗房を経て、永禄3年(1560)には天下人・三好長慶が居城とします。そして、当時の日本の中心であった京都と五畿内を支配する三好政権の拠点や文化交流の場となりました。城は北エリアと南エリアで機能が分かれており、北エリアは防御空間、南エリアは居住空間であったと考えられます。発掘調査の結果、北エリアのV郭(御体塚郭)では曲輪の南東から埴(瓦と同じ素材の四角形の板)を用いた建物跡が見つかり、瓦や壁土、大量の鉄釘、特殊な用途の台付き皿が出土しました。南エリアのVIII郭(千畳敷郭)・IX郭(南丸)でも建物の柱を支える礎石が見つかったことから、礎石建物の存在が推定されます。

この調査成果から、飯盛城は織田信長によって完成される高石垣や天守を備えた「織豊系城郭」に先行して、石垣・礎石建物・瓦の3つの要素を取り入れた城であることが明らかになりました。城を破却した痕跡は認められないことから、城跡は、飯盛城が城郭としての機能を失う永禄12年(1569)頃の姿を留めていると考えられます。



1. 飯盛城跡遠景 2. V郭(御体塚郭)埴列検出状況 3. VIII郭(千畳敷郭)礎石検出状況

【石垣を多用した山城】

飯盛城跡には、要所に石垣が築かれていることは以前より知られていました。しかし、平成28年度から3ヶ年にわたる詳細分布調査によって、虎口以外に石垣が存在しないとされていた南エリアのVIII郭(千畳敷郭)で全長22mにおよぶ石垣(写真7)を発見しました。この発見により、城の全域に石垣が用いられていた可能性が高まり、戦国時代末期では珍しい本格的な石垣を多用する山城であることが明らかになりました。

【石垣の分布】飯盛城の城域には多くの石垣が築かれていますが、その分布は北エリアの東側に集中しています。特にI郭(高櫓郭)や曲輪群B、V郭(御体塚郭)や曲輪群Eに石垣が多く築かれています。また、南エリアの虎口にも石垣が築かれています。東斜面には、権現川沿いから城に至る登城道があった可能性があり、飯盛城を訪れる人々が通る場所から見える位置に多くの石垣が築かれたと推定されます。石垣を登城道から見える位置に築くことで、城主の威光を示したと考えられます。

【石垣の特徴】石垣は自然石を垂直に近い勾配で積んだ野面積みです。また、排水機能を高めるために石垣の背面には栗石が充填されています。石垣は勾配が垂直に近くなるほど高く積むのが難しくなります。そのため、飯盛城では1段目の石垣を積んだ後に犬走状の平坦面を設け、さらに2段目を積む段築状石垣とし、高く見せる工夫がされています(石垣1と石垣69など)。延長の長い石垣では、崩れるのを防ぐために隅角部(出角)が構築されています(石垣69)。

【石垣石材】飯盛山は花崗岩類で形成されており、山中では節理(岩石の割れ目)の発達した花崗岩が見られます。築石に割った痕跡が認められないことから、石垣石材は付近の露岩から節理を利用して採石されたと考えられます。

飯盛城跡に残る石垣を見ていくと、石垣石材の調達方法や、石垣を崩れにくく、高く積むために施された工夫がわかります。これらは戦国時代の土木技術であり、石垣は当時の技術を現在に伝える貴重な遺構といえます。



4. 曲輪群Eの石垣



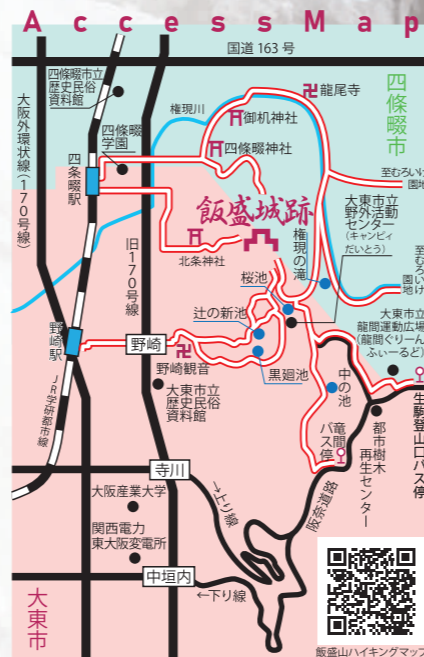
5. 曲輪群E 南側尾根の石垣



6. V郭(御体塚郭) 南側の石垣



7. VIII郭(千畳敷郭)の石垣



※JR 四條畷駅下車、徒歩約100分
※JR 野崎駅下車、徒歩約90分
※JR住道駅下車、近鉄バス16系統生駒登山口行き「竜間」下車、徒歩約40分

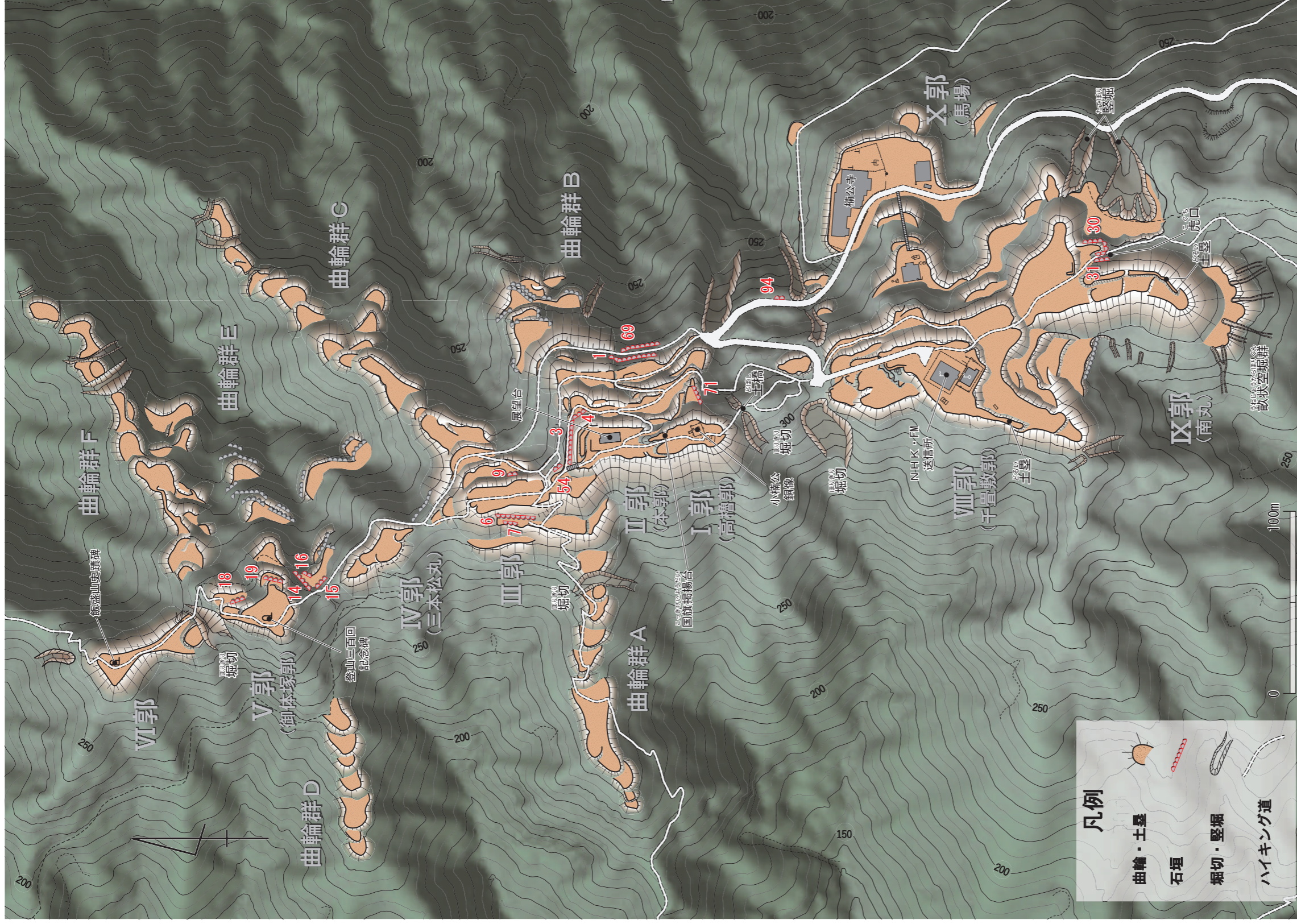
国史跡 飯盛城跡 — 石垣ガイド —

(表紙: 石垣 69)

飯盛城跡

石垣ガイド

飯盛城跡の石垣の多くは曲輪斜面の急傾斜地に築かれています。前面まで見学ルートがないため見学できない石垣が多くありますが、一部の石垣はハイキング道から見学することができます。ここでは、現地で見学できる石垣を紹介いたします。



石垣 3・4

II 郭(本郭)の中心となる曲輪の北側の斜面に築かれています。石垣3と石垣4は一連の石垣であると考えられます。石垣3・4の北西斜面下には石垣54が築かれており、その位置関係から段築状石垣であった可能性があります。



石垣 54

築石が3段のみ残り、最上段に積まれた天端石は残っていません。石垣54と石垣3・4は飯盛城の中でも高い場所に築かれた石垣です。石垣前にはハイキング道が通っており、目の前で石垣を見学することができます。



石垣 1

I 郭(高櫓郭)とII 郭(本郭)の東斜面下に築かれています。長さは約24m、高さは最大で約2.6mを測ります。石垣前面のハイキング道斜面下には石垣69が築かれており、段築状石垣であることがわかります。
*平成30年7月豪雨で石材の一部が崩落したため、現在は応急保護措置を施しています。



石垣 69

石垣1の東斜面下に位置しています。石垣の上を通る現在のハイキング道は、かつては帯曲輪であったと考えられます。石垣の長さは約44mあり、石垣が崩れないように隅角部(出角)を築いて石垣を補強しています。



石垣 6・7

III 郭の西斜面に築かれています。急傾斜地に位置するため、北側の一部を段築状として石垣が崩れないように補強されています。城の西側に築かれた数少ない石垣で、山麓などから見える場所に築くことで、城主の威光を示したものと考えられます。



石垣 14・15・16

石垣14と15は、両石垣の接点が入角となる一連のもので、その上部のハイキング道は帯曲輪と考えられます。石垣16は南東へと続き、その上段の曲輪は東山麓からの登城道であったと推定されます。



石垣 18

V 郭(御体塚郭)の北東斜面に築かれた石垣です。南東側は崩落していますが、当時はV 郭の北東から南東斜面を巡っており、権現川沿いの登城道からの視覚的効果を狙ったものと考えられます。



石垣 94

X 郭(馬場)の北西側に位置します。最下段には幅約1.2mの大ぶりな石材が用いられています。傾斜が緩やかな東山麓から、石垣94付近に至る登城道があった可能性があります。



石垣 30・31

虎口の東西に築かれています。石垣30は虎口の東側の曲輪斜面を取り巻いており、石垣30には三角形、石垣31には円形に近い特徴的な石材が築石に用いられています。石垣30の根石は築石よりも前にセリ出して掘える鎮止め石となっています。



城郭と石垣の用語

城郭【曲輪(くるわ)】山を切り盛りしてつくった平坦面
【堀切(たてぼり)】斜面に沿って掘られた空堀
【土塁(どるい)】土を盛り上げてつくった防御壁
【土橋(どばし)】堀切に設けられた土の橋
【切岸(きりぎし)】人工的につくった急斜面
【空堀(くうくぼ)】石垣の基礎になる最下段の石材
【根石(ねいし)】石垣の壘線を曲げてつくられた角
【隅角部(ぐうかくぶ)】石垣の壘線を曲げて作られた、凹部分の角

***多くの石垣は急傾斜地に位置しており、前面までの見学ルートはありません。ハイキング道を選い、転落・滑落事故を起こす危険があります。絶対にやめてください。**

【栗石(ぐりいし)】築石の背面に充填された排水用の石材
【入角(いりずみ)】石垣の壘線を内側に曲げて作られた、凹部分の角